

東京農工大学遺伝子実験施設
第16回「学校教員のための遺伝子組換え実験教育研修会」
遺伝子リテラシー教育と米国の教育教材



2016年7月28日
おおとう みちえい
大藤 道衛

1

トピックス

1. 遺伝子リテラシー教育

2. 米国高等学校での遺伝子教育と教育教材

遺伝子リテラシー教育



生命科学分野の人材

初等・中等教育機関
生物系以外の高等教育(大学学部)
市民教育(博物館等)



生命科学の教養を備えた市民

遺伝子リテラシー教育 (Gene literacy education)
→Public understanding (PU)

遺伝子リテラシー教育と Public understanding

生命科学・バイオに関する記事や情報が溢れている
遺伝子医療など生命科学は更に身近になってくる

「知らないため、解らないために起こる無用な不安」

- ・生命科学やバイオ技術を知ること、情報を取捨選択し自分の考えを持つことができる(市民の常識・教養)
- ・遺伝子医療・再生医療を受ける側の判断力
- ・食の安心安全を自ら判断する力

「次代を担う人材の育成、科学技術の国民理解を促す
科学技術コミュニケーション活動の推進」
第4期科学技術基本計画(平成23年～平成27年)

遺伝子組換え食品に不安を感じる人々



食品安全モニター課題報告「食品の安全性に関する意識調査等について」より

- ◆ 組換え食品に対しては男性の5割、女性の7割以上がある程度以上の不安を持っており、特に女性に不安を持つ人が多い。
- ◆ 不安を持つ人の割合は減少傾向にあり、2010年度には全体の約5割

[内閣府]
遺伝子組換え技術による研究開発成果の普及に関する意識調査 平成20年7月

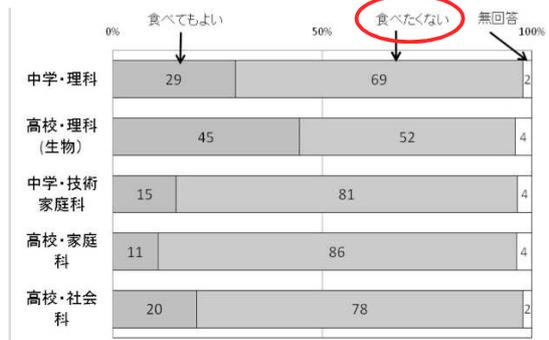


図 2-4 遺伝子組換え食品の摂食意向(学校教員)

8,000名より解答数4,080名(回答率51%)

トピックス

1. 遺伝子リテラシー教育
2. 米国高等学校での遺伝子教育と教育教材

米国高校(特にCA)における遺伝子教育の歴史

1980年～ 生命科学がバイオ技術を通じ産業に発展



高校の生物学と実社会のバイオテクノロジーとの間でのギャップ(高校教員)



一般教養としてのバイオ教育/遺伝子教育の必要性



ギャップを埋めるカリキュラムの草の根的発生(高校教員)

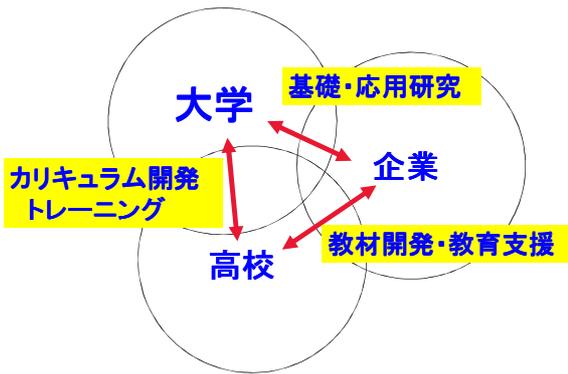


1985年～ 研究者と高校教員による共同カリキュラム
大学での高校教員の遺伝子教育トレーニング
(Stanford Univ.などで、生命科学のAPプログラム)

CA: California州

8

大学・企業・高校の連携



9



1980年代後半
カリキュラム開発に対する国の研究助成
バイオ技術の発展と遺伝子教育は車の両輪



1990年
初の“DNA SCIENCE”教科書
教育目的実験は、NIHガイドラインと無関係



クリントン大統領

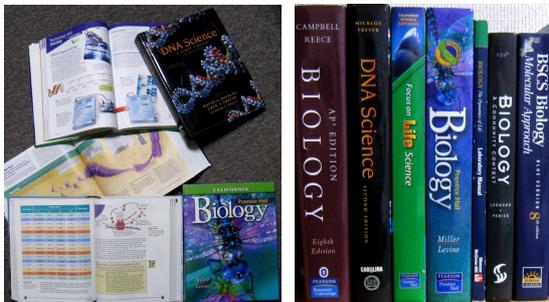
1995年 DNA SCIENCEが
National Science Education Standardに掲載
(K11, 12にて実施)

充実した生物学教科書、多数出版

Biotechnology Explorer Program 発売

10

米国高校生物学教科書



分子生物学含む遺伝について: ~20%
ヒト生物学、実験、ストーリー性
Advanced placement (AP) Biology

11

米国高等学校生物学における実験授業

実施学年: 主にK11, 12
(National Science Education Standard)
Regular, Advanced Placement (AP)

組換えDNA実験:
大腸菌K12株を用いるような教育レベルの実験は、NIH
ガイドラインの除外事項でありどこでも実施可能

ヒトゲノムDNAを用いた実験:
倫理的問題に関わらない範囲で実施可能
病気に関係する遺伝子は用いない
表現型に関わる遺伝子は用いない
親子鑑定や民族の違いに関わるDNA配列は用いない

12

教材事例1. 食品色素の分析

Science
化学
食品添加物

Technology
電気泳動による色素の分離

Engineering
電気泳動装置

Mathematics
移動度計測
色素の同定

19

教材事例2. ヒトDNAの多型解析

Science

Technology

Mathematics
Hardy-Weinbergの法則
 χ^2 乗検定

Engineering
Alu解析

$p=0.375, q=0.625$
 $+/+ \quad p^2 = 0.14 \quad (0.25)$
 $+/- \quad 2pq = 0.47 \quad (0.25)$
 $-/- \quad q^2 = 0.39 \quad (0.50)$

20

Next Generation Science Standards (NGSS: 次世代科学スタンダード)

2012年に全米学術研究評議会(NRC)が提唱した学習達成度を示したスタンダード。
NGSSは、STEM教育の考え方を、実際のカリキュラムに落とし込むための到達目標である。学校でのカリキュラム、教材を含めた教育システムを構築するための基盤となる。NRC、NSTA(全米科学教員協会)、AAAS(米国科学振興協会)が協力し、実践を前提として進めている。

<http://www.nextgenscience.org/>

21

学校教員のための遺伝子組換え実験教育研修会

2001年(平成13年)8月:
筑波大学遺伝子実験センター(鎌田博教授)
東京農工大学遺伝子実験施設(丹生谷博教授)

2002年(平成14年)度:
筑波大学・東京農工大学・東京学芸大学教育学部
山形大学、中国地区遺伝子実験施設コンソーシアム(広島大学・鳥取大学・島根大学・岡山大学・山口大学)、各地の遺伝子実験施設等十数か所で開催

「教育目的遺伝子組換え実験」においてキット教材を使用する利点

1. 必要な試薬・器具が含まれている。
2. 実験条件の設定が不要で、簡単な操作で実験ができる。
3. 各試薬を別々に購入するよりも安価である。
4. 学習目標を、自由に設定できる。

22

まとめ

1. 遺伝子リテラシー教育
 - ・実験を通じた生命科学を育む教育
 - ・教科書の充実、実験教材の普及により広まった(米国)。
2. 米国高等学校での遺伝子教育と教育教材
 - ・pGLOキットは、高校教員、大学教員により共同開発された。
 - ・STEM教育、NGSSにより、科学的な思考教育が重視されている。

23

参考文献

1. 丹生谷博 「理科教員のための遺伝子組換え実験教育研修会誌上再現。」 バイオテクニシャン17(2):48-59(2009)
2. 笹川由紀, 佐々義子, 大藤道衛, 小野道之「教育目的ヒトゲノム・遺伝子解析実験の普及と実験指針についての検討。」生物教育49(2):90-107(2009)
3. Oto M, Ono M & Kamada H "Gene literacy education in Japan -Fostering public understanding through practice of hands-on laboratory activities in high schools." Plant Biotechnol 23: 339-346 (2006)
4. 大藤道衛 「リテラシーとしての遺伝子教育(1) 遺伝子教育とアメリカにおける動向。」 バイオテクニシャン 13(1):27-35(2005)

米国の主な高等学校向け分子生物学教材開発企業

explorer.bio-rad.com

edvotek.com

carolina.com

24